

# レベル別（ラダー）看護実践能力の指標

ラダー		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ-1	レベルⅤ-2	
目標経験年数		新人	卒後概ね2年	卒後概ね3～4年	卒後概ね5年	ジェネラリスト	ジェネラリストであり、エキスパートナース（院内認定）、治療看護師、認定や専門看護師、他有資格取得看護師である	
ACTYの経験年数		新人	実務ⅠA（卒後概ね2年）	実務ⅠB（卒後概ね3年）	実務Ⅱ（卒後概ね4・5年）	ジェネラリスト		
4つの側面	到達目標	職場に早期に適応し、看護実践者として基本的な能力を習得できる	看護実践者としての基本的能力を基盤として対象の状況に応じて看護実践ができる	チームリーダーの役割を果たすことができる	看護実践者としてのモデルとなることができる	知識や技術を多方面あるいは広範囲に発揮して、指導的役割を果たすことができる	施設全体に影響力を及ぼしながら医療・看護の質の向上のために指導的役割を果たすことができる	
Ⅰ 看護職員としての基本姿勢と態度	看護職員としての自覚と責任ある行動	1. 看護師としての自覚と責任をもち、倫理に基づいた行動ができる。	16. 看護倫理上の問題に気づき問題提起でき、倫理に基づき自発的に行動できる	32. 看護倫理上の実情把握と問題整理ができ、組織人として行動することができる	48. 倫理原則に基づいて問題解決ができ、倫理的視点で後輩に指導できる。	65. 倫理原則に基づいて問題解決でき、倫理的視点で話し合いの場においてリーダーシップをとることができる。		
	患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	2. 患者のニーズを3側面から把握し、患者・家族が納得できる説明ができ同意を得ることができる。	17. 患者を全人的に理解し、家族の役割を理解した上で十分な納得できる説明を行い同意を得ることができる。	33. 患者を全人的に理解し、家族の役割を理解した上で患者家族が納得できる説明を行い自己決定を支援する。	49. 患者家族の意思を尊重し、チーム内の調整を行い人間関係に関する問題解決の行動をとることができる。	66. 患者家族との調整において、チーム内で率先して問題解決を行うことができ、患者家族と信頼関係を築き意志決定を支援できる。	82. 自らの専門的知識を活かして患者家族の意思を尊重した看護実践を行うが信頼関係を築き、人間関係を構築する上でスタッフへのモデルとなる。	
	組織における役割・心構えの理解と適切な行動	3. 理念を理解し、チームメンバーとして役割を遂行できる。	18. 理念に基づいて目標達成に向け担当した役割を果たし、自己や他のメンバーの役割を認識し相互援助ができる。	34. 理念に基づいて部署内の目標達成に向け行動でき、メンバーシップを発揮し、新人の役割モデルとなる。	50. 看護単位で目標達成に向けリーダーシップを発揮し、チームリーダーとしての役割遂行能力を習得できる。	57. 会議・委員会活動に参加し決定事項をスタッフに指導でき、他職種と協働しチーム医療を推進できる。	83. 院内外において、専門的な活動の取り組みによって当院の医療や看護に貢献できる。	
	主体的な自己学習の継続	4. 日々の看護実践の中で疑問を持ち課題に対して自己学習をすることができる。	19. 看護実践中での問題解決に向け行動し、専門職業人としての自己の学習課題に取り組むことができる。	35. 看護実践の中から解決すべき課題を見出し、解決に向け研究的に取り組むことができる。	51. 主体的に自己研鑽でき自己のキャリア開発の方向性を見だし、専門職業人として研究的態度を習得できる。	68. 自己のキャリア開発において具体的な目標に向かい計画を立て自己研鑽を継続することができる。さらに看護実践のなかで研究に取り組むことができる。	84. 自己のキャリア開発において、より積極性かつ専門性を重視した態度で自己研鑽に努めることができる。	
Ⅱ 看護実践における技術的側面	知識	5. 看護実践のための基本的知識、技術、態度を身に付けることができる。	20. 専門的知識を深め、特に精神的・社会的側面について知識を深めることができる。	36. 対象の個性を認識して、対象に必要な社会資源を活用できる。	52. 対象の3側面を統合して捉え、対象に起きている状況を瞬時に把握できる。	69. 知識を統合してまたは直感的に状況を把握し患者理解ができる		
	判断	6. 助言を受けて優先順位を判断し患者に必要なケアを考えることができる。	21. 優先順位を判断し患者に必要なケアを考えることができる。	37. 状況に応じた優先順位を決定することができ、患者個々個性を重視した対応ができる。	53. 対象のおかれている状況を包括的に捉え予測される問題にも対応しながら柔軟な対応ができる。	70. 対象の問題を倫理的視点でとらえ、意志決定に関わり、患者の権利・尊厳が守られるように対応できる		
	実践	7. 患者を一個人として尊重し、説明と同意を得ながら安全に看護実践ができる。	22. 患者の反応に考慮しながら状態に沿った援助が実施できる。	38. 患者の反応やニーズに合わせて個別性のある看護が提供できる。	54. 患者の反応やニーズ、潜在的なニーズに対し速やかに対応しながら個別性のある看護が提供できる。	71. 予測困難な状況にも対応し変化を見極めてリスク回避しながら看護実践ができる		
	実践の結果	8. 助言を受けながら、看護実践の振り返りを行うことができる。	23. 患者の反応を考慮して看護実践を振り返ることができる	39. 患者のニーズを充足でき、振り返りの過程から課題を見出すことができる	55. 患者の複雑なニーズを充足でき、おおむねの行為にも満足感が得られ分析評価できる。	72. 患者の複雑なニーズを充足でき、自然に結果に満足感が得られる。さらに分析評価し、看護・医療の質の向上に役立てることができる。		
Ⅲ 専門領域の看護実践能力	当院に期待されている政策医療と当院の理解と実践、また他の政策医療の理解	9. 当院の政策医療について助言を受けながら理解できる。	24. 当院の政策医療（呼吸器・神経筋疾患）の看護の特徴を説明できる。	40. 当院の政策医療（呼吸器・神経筋疾患）の看護の特徴を指導でき、他の政策医療の看護について興味を持ち自主的に学習できる。	56. 当院の政策医療（呼吸器・神経筋疾患）において看護実践ができ、他の政策医療の看護について興味を持ち体験できる。	73. 当院の政策医療分野の看護実践において役割モデルとなることができ、他の政策医療の看護実践について説明できる。		
		10. 当院の担う医療について理解ができ、地域のなかで期待されている役割を把握することができる	25. 当院の3疾患センターにおける看護の役割を説明できる。	41. 所属する部署の医療の特徴と看護のそこで展開される看護の役割を理解し、実践することができる	57. 所属する部署において回復プロセスに応じた看護が実践でき、後輩に指導・助言ができる。	74. 当院で展開されている疾患全体を把握し、患者の状況・プロセスに応じた看護が実践でき、後輩に指導・助言ができる。		
					58. 当院の3疾患センターでの看護活動に積極的に参加できる	75. 当院の3疾患センターでの看護活動において院内外の講師をつとめることができる。		
Ⅳ 看護実践における管理的・教育的側面	安全管理	11. 施設の安全管理体制を理解し、インシデント・アクシデントの報告ができる。	26. 患者の個性を捉えた安全対策を考え実施できる。	42. 部署内の安全に関する問題を理解し、安全対策を考え実施できる。	59. 病院の安全管理体制を理解し、改善にむけての提案ができる。	76. 病院の安全管理体制を理解し、予測して安全対策を講じることができる。また、対策の評価を行い安全文化の醸成に寄与することができる。		
	情報管理	12. 個人情報保護法を理解し診療録を適切に取り扱うことができる。	27. 個人情報保護法の観点から、診療録の取り扱い上の問題点に気づくことができる。	43. 所属部署内における個人情報保護に関する問題提起と患者・家族への適切な説明ができ、情報開示を考慮した看護記録を作成できる。	60. 医療情報や個人情報保護法に関する問題を理解し、問題に対処することができる。	77. 医療情報や個人情報保護法に関する問題を予測し対処、患者の権利を守ることができ、同僚に指導することができる。		
	業務管理	13. 看護業務内容を理解し、業務基準・手順に沿って行動できる。	28. メンバーシップを発揮し、業務基準・手順に沿って自立して行動できる。	44. 日々のリーダー業務においてリーダーシップを発揮し、業務基準・手順に沿って問題提起できる。	61. 看護チームでリーダーシップをとり業務調整ができ、看護業務の見直しについて指導的役割を果たすことができる。	78. チームリーダーの役割遂行をしながら看護部門全体について考え、看護業務において自己の持つ影響力を理解し行動することで、よりよい職場環境作りができる		
	薬剤・物品管理（コスト意識含む）	14. 薬剤や物品を適切に取り扱うことができる。	29. 薬剤や物品の管理上の問題点に気づくことができる。	45. 部署内における薬剤や物品の管理について問題提起でき、改善策を提案できる。	62. 薬剤や物品の適正な管理について改善にむけた提言ができ、病院の経営方針を理解し参画できる。	79. 薬剤や物品の適正な管理について改善にむけた提言ができ、病院の経営方針を理解し適正な管理ができる。		
	災害・防災管理	15. 防災訓練に参加し初期対応ができ、消火設備や避難ルートを患者に説明できる。	30. 災害発生時、マニュアルに沿って適切に行動できる。	46. 災害発生時、患者の救命を優先し適切に対応できる。	63. 緊急時、災害発生時、適切に判断して行動がとれるとともに、発生に備えて療養環境の問題解決ができる。	80. 緊急時、災害発生時にはリーダーシップをとり行動でき、日頃から災害予防に心がけ療養環境の整備及び点検を率先してできる。		
	教育的側面		31. 新人看護師の気持ちを理解し共に学ぶことができる。	47. 後輩とともに問題解決にむけることができる。	64. 看護実践の役割モデルを示しながら、後輩や学生個々に応じた適切な指導・助言ができる。	81. 看護部門の教育活動を理解し、教育環境を整え同僚、後輩、学生指導のリーダーシップをとることができる。		